

アントワン・タメスティ(ヴィオラ) Antoine Tamestit, Viola



今世界で最も活躍しているソロ・ヴィオラ奏者。

2021年シーズンはロンドン交響楽団のアーティスト・ポートレート及びドレスデン国立歌劇場管弦楽団のアーティスト・レジデントとして協奏曲、室内楽を共演。

22年シーズンはプラハの春音楽祭のアーティスト・イン・レジデントを務める。2013年より10年間ヴィオラ・スペースの企画・プログラミングに携わる。バロックから現代作品まで幅広いレパートリーを持ち、世界初演も多い。これまでにJ. ヴィットマン、T. エスケシュ、B. マントヴァーニ、O. ノイヴィルトによる作品の初演を行っている。

ウィーン・フィル、ボストン響、バイエルン放響、パリ管、チェコ・フィルなどに登場。共演指揮者にはJ.E.ガーディナー、K.ペトレンコ、ラトル、F.X.ロト、ティーレマン等が挙げられる。ハルモニア・ムンディとの録音が多く、

最新のリリースに鈴木優人とのJ.S.バッハ：ヴィオラ・ダ・ガンバ ソナタがある。

パリ生まれ。ジャン・スレム、ジェシー・レヴァイン、タベア・ツィンマーマンに師事。ARD ミュンヘン(2004年)を始め4つの国際コンクールで1位受賞。

Habisreutinger 財団より貸与されている1672年製ストラディヴァリを使用。